



大分県議会議員 自由民主党

宮成公一郎

みやなり こういちろう

《事務所・自宅》 〒878-0011 竹田市大字会々1861-30
TEL・FAX (0974) 63-0581 HP <https://miyanari-kouichirou.com/>

県政

レポート⑦

令和8年
新春号



- 年末、平穏な毎日を送っていた漁村を襲った大規模火災、先の見えない不安の中で迎える新年。灯台の灯りのように前を照らす役割を担うのが、行政であり政治だと思っています。
- 昨年、戦後80年、被爆80年を迎えた広島を訪ねました。平和祈念資料館などで5時間ほど当時に思いを馳せながら、戦争の悲惨さと平和の尊さを改めて心に刻みました。
- ゆく河の流れは絶えずして、しかも、もとの水にあらず——明日は今日よりきっと良い日になると信じ、この一年が皆様にとって輝かしい一年となりますようお祈りいたします。
- 本号では、9月に行った一般質問・答弁の要旨などについてお伝えします。

I. 地域医療における諸課題について

(1) 地域医療を支える医療人材の確保について

- (宮成質問、以下同じ) 物価高、人件費の高騰等により、公立病院、地域医療を担う民間病院、診療所を問わず深刻な経営危機が全国的に広がっている。
- 特に、地方の中小医療機関では人口減少の中、医療体制の維持が困難になりつつあり、来春の診療報酬改定まで持ちこたえられるかと不安の声が寄せられている。
- 救急や入院医療が維持できなくなれば、地域で暮らすことが困難になるなどその影響は大きく、無医地区の拡大や将来的な感染症の対応にも不安が生じる。
- 内科、小児科、耳鼻咽喉科など身近な診療所を含め、対策を国へ働きかけるとともに県として対応策を講じる必要があるが、今後どのように取り組んでいくか伺う。

⇒(答弁) 県として必要な財政措置を講じるとともに、国に対して診療報酬の臨時改定や緊急的な財政支援を要望している。

⇒医師、看護師、薬剤師などの確保に向け経済的な支援、広報、研修など広範に行ってきたが、安定的な医療提供体制を維持するために今後も支援の充実に努めていく。

(2) 高次脳機能障がいについて

- 高次脳機能障がいは、脳血管疾患や交通事故等で起こる障がいであり、記憶・注意力・判断力・感情のコントロール等に支障をきたす「見えにくい障がい」である。
- 支援拠点機関の設置、支援者養成研修、家族会連携など進めているが、周囲の理解が得られにくい等、多くの課題が残されている中、今後の取組みについて伺う。

⇒県内で年間約1,200人が高次脳機能障がいを有す新規患者として診断されており、県の支援拠点機関で自動車の運転再開や就労・就学などの相談支援を行っている。

⇒普及啓発、専門職員養成等、今後も関係機関と連携しながら切れ目のない支援の充実に努めていく。

※高次脳機能障害者支援法が臨時国会で成立し、令和8年4月から施行されます！

3. 交通の安全・安心について

(1) 交通安全対策について

■近年、ハンズフリー普及によるスマホの「画面注視」等による「ながら運転」に起因する死亡・重傷事故は過去最悪を記録し、啓発の見直しが求められている。

■道路交通法が改正され、自転車の「ながら運転」にも罰則が科されるようになり、家庭・学校・地域での教育・啓発が必要だが、どのように取り組むのか伺う。

⇒昨年を大きく上回るペースで交通死亡事故が発生している中、「ながら運転」を含めて取締りを強化するとともに、あらゆる機会に広報啓発を行っている。

⇒今後も飲酒運転、信号無視、横断歩行者妨害等への取締りや、地域住民や関係機関と連携したシートベルト装着、ヘルメット着用等と併せた啓発を行っていく。

(2) 道路環境について

■猛暑が続く中、道路沿いの草木が繁茂し、視界の妨げやセンターインを越えた運転等、通行の支障となる危険な状況の要因となっている例が見受けられる。

■山間部では、所有者不在の例や、高齢の所有者自ら伐採することが困難なケースも少なくない。緊急車両の通行や災害時の避難路確保も懸念される中、定期的な巡回点検を通じた予防的な対応を講じる必要があるのではないか。

⇒車両通行に支障となる樹木は上空4.5メートルまで除去をするよう努めており、場合によっては、民地所有者と協議の上、緊急的措置として県が伐採している。

⇒雑草対策は、草刈のほかコンクリート張りや除草剤散布による省力化も進めているが、今後も地域の皆様とともに安全で快適な道路環境の維持に努める。

■山間部での災害発生抑止を対象とした伐採に森林環境税活用を検討されたい！



で見る議員活動～



中津市で行われたLPガス総合防災訓練に参加していた竹田市の皆さんとパチリ。



福岡市美術館の「墓守」と吉備津神社前の「犬養木堂(毅)像」は朝倉文夫の作品。



2年後の共学化を控える高等工科学校の現地調査。

■新しい年が始まりました。丙午(ひのえうま)の年は挑戦、飛躍、発展の年とされ縁起の良い年と言われており、県議4年目の任期を迎える私も自身の成長と飛躍を期しています。

■國の外では、振り上げた手を下ろす方法を見つけられず、いまだ終わりの見えない紛争が続いています。「終わらせることの難しさ」から「始めさせないこと」を学んでいます。

■長く続いたデフレからの脱却が物価高騰をもたらし、人件費も上昇する中で、中小企業や小規模事業者の経営を圧迫しています。足下の課題解決に向け着実に取組みを続けます。

■足を引きずりながらも様々な土地を訪れていますが、どこに行っても「竹田の素晴らしさ」を感じます。近い将来、必ず飛躍の時が訪れる信じ本年も日々活動していきます。宮



大分県議会議員 自由民主党

宮成公一郎

みやなり こういちろう

《事務所・自宅》 〒878-0011 竹田市大字会々1861-30
TEL・FAX (0974) 63-0581 HP <https://miyanari-kouichirou.com/>

県政

レポート⑦

令和8年
新春号



- 年末、平穏な毎日を送っていた漁村を襲った大規模火災、先の見えない不安の中で迎える新年。灯台の灯りのように前を照らす役割を担うのが、行政であり政治だと思っています。
- 昨年、戦後80年、被爆80年を迎えた広島を訪ねました。平和祈念資料館などで5時間ほど当時に思いを馳せながら、戦争の悲惨さと平和の尊さを改めて心に刻みました。
- ゆく河の流れは絶えずして、しかも、もとの水にあらず——明日は今日よりきっと良い日になると信じ、この一年が皆様にとって輝かしい一年となりますようお祈りいたします。
- 本号では、9月に行った一般質問・答弁の要旨などについてお伝えします。

I. 地域医療における諸課題について

(1) 地域医療を支える医療人材の確保について

- (宮成質問、以下同じ) 物価高、人件費の高騰等により、公立病院、地域医療を担う民間病院、診療所を問わず深刻な経営危機が全国的に広がっている。
- 特に、地方の中小医療機関では人口減少の中、医療体制の維持が困難になりつつあり、来春の診療報酬改定まで持ちこたえられるかと不安の声が寄せられている。
- 救急や入院医療が維持できなくなれば、地域で暮らすことが困難になるなどその影響は大きく、無医地区の拡大や将来的な感染症の対応にも不安が生じる。
- 内科、小児科、耳鼻咽喉科など身近な診療所を含め、対策を国へ働きかけるとともに県として対応策を講じる必要があるが、今後どのように取り組んでいくか伺う。

⇒(答弁) 県として必要な財政措置を講じるとともに、国に対して診療報酬の臨時改定や緊急的な財政支援を要望している。

⇒医師、看護師、薬剤師などの確保に向け経済的な支援、広報、研修など広範に行ってきたが、安定的な医療提供体制を維持するために今後も支援の充実に努めていく。

(2) 高次脳機能障がいについて

- 高次脳機能障がいは、脳血管疾患や交通事故等で起こる障がいであり、記憶・注意力・判断力・感情のコントロール等に支障をきたす「見えにくい障がい」である。
- 支援拠点機関の設置、支援者養成研修、家族会連携など進めているが、周囲の理解が得られにくい等、多くの課題が残されている中、今後の取組みについて伺う。

⇒県内で年間約1,200人が高次脳機能障がいを有す新規患者として診断されており、県の支援拠点機関で自動車の運転再開や就労・就学などの相談支援を行っている。

⇒普及啓発、専門職員養成等、今後も関係機関と連携しながら切れ目のない支援の充実に努めていく。

※高次脳機能障害者支援法が臨時国会で成立し、令和8年4月から施行されます！